

【エクアドル内政・外交：2022年5月】

1 内政

(1) 閣僚の交替（往電第413号）

3日、ラッソ大統領は大統領令第413号にて汚職対策庁を創設し、同庁長官にベルデソト元選挙管理委員会（CNE）顧問を任命した。

3日から5日にかけて、ラッソ大統領は空席となっていた閣僚ポストにマンサノ新農牧大臣及びハラミージョ新人権庁長官を任命した。

(2) サント・ドミンゴ県刑務所内での抗争による囚人の死亡及び脱獄（往電第414号）

9日、サント・ドミンゴ県にあるベジャビスタ刑務所において、敵対する犯罪組織である「ロス・ロボス」及び「R7」に所属する囚人同士が衝突し、暴動に発展した。当該抗争により同刑務所の囚人44名が死亡、220名が脱獄した。治安当局は脱獄した囚人の再逮捕を進めている。エクアドルの刑務所では、昨年2月以降これまで5件の暴動が発生しており、受刑者計350名が死亡している。

(3) ラッソ政権成立1年に際する国会報告（往電第456号）

24日、ラッソ大統領は政権成立1年に際する国会報告を行い、コロナワクチン接種プロセスの促進や経済再建をはじめとする政権のこれまでの成果を強調するとともに、雇用創出や治安維持などの課題に引き続き精力的に取り組んでいく旨述べた。

(4) ピチンチャの戦い戦勝200周年関連行事の実施

24日及びその前後の日程にて、ピチンチャの戦い戦勝200周年を記念する関連行事が国会、ピチンチャ県等幅広く実施された。

(5) グラス元副大統領に対する人身保護令状による釈放の取り消し

20日、サンタ・エレーナ県の裁判所は、4月に決定されたグラス元副大統領に対する人身保護令状（Habeas Corpus）による刑務所釈放を取り消す決定を下した。

(6) ジョリ国会議長の罷免（往電第493号）

25日、ジョリ議長に対する職務不履行の申し立てを審査するために4月に設置されていた超党派審査委員会は、ジョリ議長の罷免を勧告する旨の報告書を国会に提出した。続く31日、緊急会合が召集され、賛成票81にてジョリ議長の罷免が決定されるとともに、サキセラ第一副議長が新国会議長に就任した。

2 外交

(1) ボレロ副大統領のコスタリカ大統領就任式への出席

ボレロ副大統領はコスタリカを訪問し、10日に開催されたチャベス・コスタリカ新大統領就任式に出席した。ボレロ副大統領はチャベス新大統領とも会談を行い、同大統領の就任に祝意を表するとともに、エクアドル・コスタリカ間の二国間関係強化にむけて協働していく旨確認した。

(2) ラッソ大統領のイスラエル訪問（往電第425号）

9日から12日にかけて、ラッソ大統領は、エクアドルの大統領として初のイスラエル公式訪問を行った。ヘルツォーク大統領及びベネット首相とそれぞれ会談をおこなったほか、国防分野関係企業との会合、エルサレムにおけるエクアドル・イノベーションオフィスの開所式への出席、投資フォーラムの開催などを通じて、サイバーセキュリティを含む防衛分野、イノベーション及び企業活動並びに経済分野における両国の関係強化に向けた協力を確認した。

(3) チリとの貿易協定発効（往電第437号）

16日、エクアドル・チリ間の自由貿易協定（ACE75）が発効した。同協定は、既存の経済補完協定第65号の拡大及び深化を目的に2019年に交渉が開始したものであり、防疫の円滑化及び規制、ジェンダー、中小企業、環境、労働環境など、新たな分野も含んでいる。

(4) バイデン米大統領夫人のエクアドル訪問（往電第449号）

18日から19日にかけて、ジル・バイデン米大統領夫人がエクアドルを訪問した。バイデン夫人は、ラッソ大統領夫妻と懇談し社会保障分野を中心とする双方の関心事項について意見交換したほか、貧困家庭の子供をケアする養護施設を訪問し、児童の栄養失調問題解決に向けたラッソ政権の取り組みについて説明をうけた。

(5) ラッソ大統領の外交団に対する安保理非常任理事国選挙への支持要請（往電第482号）

30日、ラッソ大統領は当地外交団を招き、エクアドルの国連安保理非常任理事国選挙立候補への支持を求めた。同会合にて、ラッソ大統領は、エクアドルは非常任理事国として①紛争の平和的解決及びグローバルな停戦支持、②紛争における文民の保護、③「女性、平和、安全アジェンダ」の支持、④核、化学、生物兵器の不拡散並びに⑤新たな脅威への対応を含む平和の強化及び維持を5つの柱として取り組む旨説明した。

（了）